

1 単元名 たぬきの糸車

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をとらえている。 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	これまでの学習をいかし、場面の様子に進んで着目し、好きな場面を音読しようとしている。

3 教材のとらえ

物語の展開が明確であり、人物の行動から場面の様子をとらえるのに適した教材である。「キークルクル」「くるりくるり」「ぴよこんと」などの言葉に着目し、たぬきの様子や糸車が回る様子を想像させたい。

作品の柱になっているのは、「たぬきのいたずら心」であり、「おかみさんとたぬきの心の交流」である。たぬきがやってみたかった糸車を回すという行為を、思う存分やり尽くして嬉しそうに帰っていく姿は、児童も共感的に読むことができるだろう。また、そのようなたぬきの姿に、親しみやかわいらしさを感じるようになったおかみさんの気持ちも併せて読み取ることができるようにしたい。



4 本時の指導案

本時の目標 挿絵や本文をもとに、たぬきの行動や気持ちを想像することができる。

本時の学習

学 習 活 動	教 師 の 支 援
1. 全文を音読する。	
2. 本時のめあてを確認する。	
なんで たぬきは 糸車を回したのかな	
3. 山小屋に来て糸を紡いでいるときのたぬきの気持ちを話し合う。 「糸車を回すの楽しいな。」 「もっと糸車を回したい。」 「キーカラカラ キークルクルって音がするな。」 「これでおかみさんに恩返しができるかな。」 「ありがたいの気持ちが伝わるといいな。」	○叙述や挿絵をもとに考えられるようにする。 ○吹き出しを用意し、気持ちを書き込めるようにする。
4. たぬきが糸車を回した理由について話し合う。 ・糸車を回してみたかったのだよ。「キーカラカラ キークルクル」って糸車のまねをしていたよね。 ・「おかみさんがしていたとおり」って書いてあるから、おかみさんのまねをしたかったのだと思うよ。 ・おかみさんによろこんでほしかったのだと思うよ。 ・わなにかかった時におかみさんに助けてもらっていたよね。きっとその時のありがとうを伝えたかったんだよ。 ・「白い糸のたばが、山のようにつんであった」ってあるから、たくさん糸車を回したのだね。	○わなにかかって怖い思いをしているのにも関わらず、どうして山小屋に来て糸を紡いだのかという点に着目できるように問い返しをする。
5. 学習の振り返りをする。	○友達の考えをきいて分かったことや、参考になった意見などを振り返る。